

WE21 ジャパン大和
2022年度 事業報告

活動方針	活動点検・評価
<p>1. 民際支援事業</p> <p>アジアの人々の生活向上と自立のための活動を支援・連携していきます。</p> <p>1) 支援事業をすすめるため、必要な講座へ参加し理解を深めます。</p> <p>2) アジアの女性たちの生活向上に寄与することを目的として、フェアトレード品を継続して扱います。</p> <p>3) 海外NGO、国内NGOのプロジェクト支援をおこないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ緊急支援に取り組みます。 <p>4) 10月の世界貧困撲滅デーに向けた取り組みをします。</p>	<p>1. 民際支援事業</p> <p>1) 6/19C Y R（幼い難民を考える会）主催の講演会「もう難民にならない」に参加し、内容を運営委員会で共有しました。参加者 3人</p> <p>2) フェアトレード品を継続して取り扱っています。</p> <p>取扱品目：コーヒー、ジンジャーティー、ヘナ、カレールー</p> <p>フェアトレードフェアを11/4, 5日に開催し、ジンジャーティーの試飲を実施しました。その結果、売上げが伸びました。</p> <p>3) ・7月に福島「たらちね」から緊急支援の要請があったので、5万円の支援を実施しました。</p> <p>汚染水放流に対応して、新たに魚の組織結合型トリチウム測定に必要なシンチレーション測定器購入のため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月にWE21 ジャパンとフィリピンとの交流24周年記念として、「フレンドシップトレードを未来につなげるために！森育ちしょうがパウダーフェアトレード事業への寄付」の依頼要請があり、1万円を寄付しました。（輸送費の高騰に伴う） ・トルコ地震への緊急支援として、セーブザチルドレンを通じて10万円の寄付を実施しました。また、募金箱を設置して募金を呼びかけました。 ・ジュマネットの緊急支援の依頼で、ロヒンギャ難民支援のために10万円を寄付しました。 <p>4) 10月1日より店内掲示をし、募金箱を設置しました。事前にボランティアさんとC Y Rについて学習するとともに、「布チョッキン」を体験しました。</p> <p>10/17に店内でも「布チョッキン」実施しました。</p> <p>店頭募金：5,590円、「みんなで布チョッキン」人形2</p>

<p>5) 3.11を忘れないキャンペーンを実施して東日本大震災の被災者に思いを寄せると共に、店頭で現状のアピールを続けていきます。</p>	<p>体、ボール大17個、小2個 寄付11,500円、当日のショップ売り上げ14,410円の合わせて31,500円をCYRに寄付しました。</p> <p>5) 年間を通して、東北宮城県産の海産物を取り扱うと共に募金箱を設置しました。3月に店内掲示をするとともに、入り口付近に海産物の売り場を移動して、東日本支援をアピールしました。 店頭募金14,670円、当日の売り上げ17,330円を合わせて、32,000円を「たらちね」に寄付しました。</p> <p>6) 11/12～12/10までレインボーキャンペーンを実施し、店頭募金と合わせて5千円をフィリピンのIYAMANに子どもたちへのクレヨンプレゼントの原資として寄付しました。</p>
<p>2. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業</p> <p>1) チャリティーショップ「WEショップやまと」の運営をします。 ショップスタッフを探しながらボランティアと連携し、ショップ運営に責任をもちます。</p> <p>2) リメイクチームを中心にリメイク文化を広げます。</p> <p>3) 廃油の回収に取り組みます。</p> <p>4) 同じ目的をもって地域で活動している他のローカル組織と連携し、リユース・リサイクル事業をすすめていきます。</p>	<p>2. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業</p> <p>1) 運営委員会で計画を立て、責任を持ってショップ運営をしています。</p> <p>2) 夏は浴衣地のパンツや手作りマスクが好評でした。3月にリメイクフェアを実施し、作品数も多く好評でした。</p> <p>3) 毎月回収し、1年間で250kgの回収量となりました。2019年1月からショップの電気を廃食油で発電をしている「東京油電力」と契約していましたが、業務の終了に伴い、5月末で契約を解除しました。</p> <p>4) 今年度からサーキュラー・コットンファクトリー（注2）が実施しているコットンの回収に取り組んでいます。 また、衣類として活用できないダウン製品の回収に</p>

<p>5) プリン石けん作りを通して、環境に優しい暮らしを提案していきます。</p>	<p>取り組んでいます。</p> <p>5) 新しいペール缶を購入して9/26にプリン石けん作りを実施し、年間を通して販売しました。</p> <p>6) 12月に設立記念日を含めた3日間に、お客様に軍手をプレゼントしました。また、記念セールを実施しました。</p>
<p>3. 広報活動</p> <p>WE21 ジャパン大和の活動を広げ、理解を深めるために情報の受発信に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報紙「WEひろば」の発行 3回 各 100枚（初回は200枚） ・ ショップちらしの発行 拡大ちらしやフェア・セールチラシを感染状況を見ながら配布します。 ・ ポスター、支援ニュース、パンフレット等を活用した店内掲示を充実させます。 ・ 会員へ「WEひろば」を発送します。(3回/年) ・ A看板を活用します。 ・ ホームページを活用し情報を発信していきます。 	<p>3. 広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「WEひろば」1回目を7月に、2回目を11月に、3回目を2月に発行しました。 ・ 既存のショップチラシの裏側に、お受けできる品物の詳細を印刷して店頭で配布しています。ボランティアミーティングの折に、ボランティアさんに配布への協力を依頼しました。 ・ 冬物半額チラシを1,000枚、和物フェアチラシを1,000枚配布しました。 ・ 支援報告を書き替えて掲示しています。 ・ 「WEひろば」を7月、11月、2月の年3回会員に発送しました。 ・ A看板を適宜書き替えています。(季節の変わり目、イベントのお知らせのある時など) ・ イベントのお知らせなどを中心に情報を書き替えて発信しています。 ・ 今年度、インスタグラムを使って情報発信に取り組みました。
<p>4. 組織活動</p> <p>1) 運営委員会</p> <p>①事業活動の執行に責任を持ちます。</p>	<p>4. 組織活動</p> <p>1) 運営委員会</p> <p>①5月15日に総会を桜丘学習センターにて実施しました。また、総会後にWE講座を実施しました。</p> <p>総会出席： 13人、WE講座出席 12人</p>

<p>②WE21 ジャパン大和の運動を地域に広げ、会員の拡大に努めます。 目標：45人</p> <p>③WE21 ジャパン及びショップ運営の充実を図り、運動を広げるためにボランティアの参加拡大をすすめます。</p> <p>2) WE 講座の開催 WE21 ジャパン大和のあり方を学び、問題意識の向上をめざします。</p> <p>3) ボランティアミーティング ボランティア・ショップスタッフ・運営委員が交流し、ショップ運営や支援活動等について理解を深められるよう定例化して開催します。</p>	<p>②会員の拡大 3月31日現在の会員数は41人でした。</p> <p>③ボランティアの拡大 4人が新たに参加してくれました。</p> <p>2) WE 講座の開催 ・5/15 総会終了後に共同の家プアン報告会を実施しました。「若い女性の現状と生きづらさ」 講師：郡司真弓さん 参加者：12人 ・9/26にCYRのDVDを鑑賞し、現地の状況を知ると共に、実際に現地に送る布を切る作業を実施しました。参加者：12人</p> <p>3) ボランティアミーティングの開催 7/19 1回目開催 参加者 11人 9/26 2回目開催 参加者 12人 ショップ運営や支援活動について、意見交換をする中で理解を深めました。</p>
<p>5. 平和な社会の実現に向けての活動 さまざまな情勢を捉えながら、平和にむけた運動に取り組みます。</p>	<p>5. 平和な社会の実現に向けての活動 ・5/21 山口二郎さん講演会（9条の会主催）、5/28 元JVCの谷山博史さん講演会（県央共闘会議主催）にメンバーが参加し、内容を共有化しました。 ・厚木基地関連の情報を共有化しました。 ・核廃絶に向けて活動をしている「knowNukes Tokyo（世界および日本における核廃絶の運動）」の活動報告会の内容を共有化しました。</p>
<p>6. 他の市民団体等との連携 活動の拡大をはかるため他団体との交流に努めます。 ・コミュニティオプティマム福祉地域協議会大和に参加します。 （市民まつりへの参加等）</p>	<p>6. 他の市民団体等との連携 ・コミュニティオプティマム福祉地域協議会大和の定例会議に参加しています。 ・引地台公園での市民まつりは中止になりました。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントや講座へ参加します。 ・ 中高校生のボランティアを受け入れます。 ・ ワーカーズ・コレクティブ協会等の就労支援事業に協力します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年3月より、毎月1日に旗をたてて、フードドライブを実施しています。集まった食料品をフードバンク拠点の「さくらの森・親子サポートネット」に届けています。 ・ コミュニティ・オブティマム主催のイベント等は実施されませんでした。 ・ 専門学校生のボランティアを受け入れました。 ・ 5月より横浜市就労支援事業対象の実習生を受け入れています。1期10回で、3期受け入れました。
<p>7. 企業や事業者との連携</p> <p>1) 社協の赤い羽根共同募金活動に参加します。</p> <p>2) イオン大和店の黄色いレシートキャンペーンに引き続き参加します。</p>	<p>7. 企業や事業者との連携</p> <p>1) 10/18より月末まで店頭で募金箱を設置しました。今年度会費5千円を納入しました。4月に民間助成金5万円をいただきました。</p> <p>2) イオン大和店の黄色いレシートキャンペーン昨年度分18,900円を寄付金として頂きました。新年度の参加申し込みをしました。</p>

***注1 「みんなで布チョッキン」とは**

特定非営利活動法人幼い難民を考える会（略称CYR）を通じて、長く内戦が続いたカンボジアの子どもたちにボールと人形を送る活動です。

用意した布を型どおりに切って、寄付金をつけてCYRを通じてカンボジアに送ります。カンボジアの女性たちがその布を縫って、ボールや人形に仕上げます。こうした活動は、子どもたちに不足している遊具を届けると共に、カンボジアの女性たちの収入を得る機会をつくっています。

***注2 サーキュラーコットンプロジェクトとは**

衣類を再利用し、パルプ原料とあわせて紙に再生する活動。